



# グリーンレター Green Letter

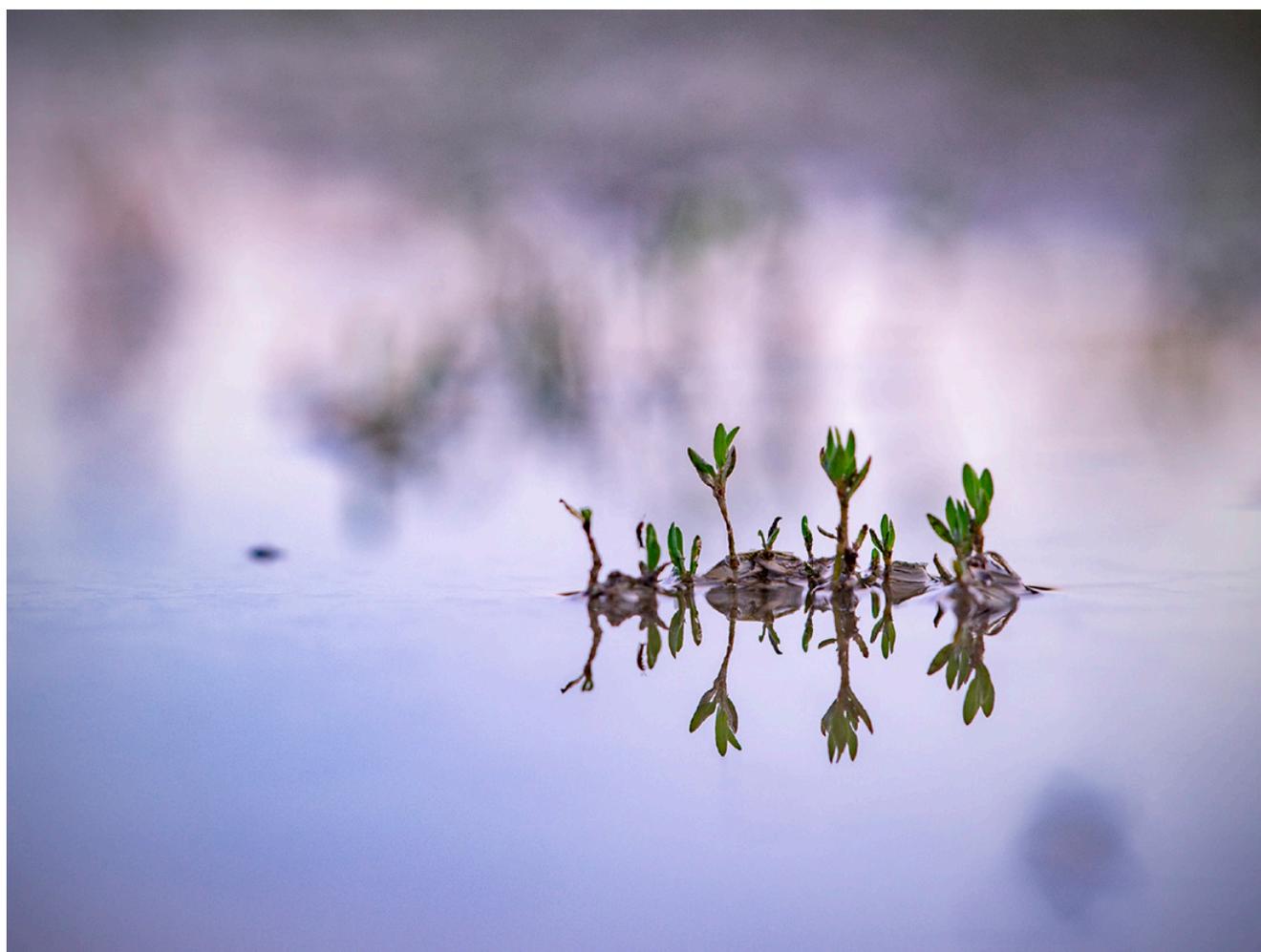
Green Column グリーンコラム

01 干支にちなんだ植物

02 馬と美幌

Vol.342

2026/02/01



青山秀行《水たまりの宇宙》

## Photo 今月の1枚

鏡のように空を映し出している水面（みなも）と、そこから顔を出す青々とした植物。さぞかし大きな池か湖を写したものかと思いきや、実は水たまり。この植物はミチヤナギの仲間、葉は1cmにも満たない大きさと言えれば納得していただけるでしょうか。蟻の目になってみると、水たまりが宇宙のように見えるんですね。（城坂結実）



## 01 Green Column グリーンコラム

# 干支にちなんだ 植物

写真・文／城坂結実

**本**誌は1月号がお休みのため、2026年が明けてはじめてのコラムとなります。今年もグリーンレターを通して、みなさまに美幌町の自然の面白さ、不思議さをお伝えできたらと思いますので、よろしく願いいたします。

ありがちな話題かもしれませんが、年明け初コラム担当なので、今年の干支である午（うま）にちなんだ植物をご紹介します。写真のセリ科、ウマノミツバ（馬之三葉）です。

ウマノミツバは日本全国に分布する植物で、美幌町内でも至る所で見られます。少し湿った森の中に生育するので、美幌町の市街地付近では、美幌みどりの村森林公園や柏ヶ丘公園、美富自然公園などで見ることができます。花は7月頃に咲きますが、とても小さく、クリーム色と地味な見た目のため、あまり目に留まらない植物の一つ

かもしれません。

葉の形はミツバに似ているものの、人が食べるものではなく「馬に食べさせる程度のもの」という意味で馬之三葉と呼ぶそうです。ミツバのような香り也没有。

さて、こんなに普通に見られるウマノミツバなのだから、美幌博物館の植物標本庫にはさぞかしたくさん收藏されているのだろうと思い覗いてみたところ、美幌町のウマノミツバの標本は1点だけ。それも2023年に学芸協力員のYさんに採取してもらったもので、それまで標本はなかったのです。

実のところ、美幌博物館の植物標本庫には、市街地でよく見られる雑草や見た目が地味な植物の標本があまりありません。華やかなものに目が留まるのは、人の性なのかもしれませんが、今年はあるふれた地味な植物の標本を作成しようと思います。

## 馬と美幌

写真／美幌博物館収蔵資料・文／八重柏誠

今年<sup>今</sup>は午年。今では街中で馬を見かけることは少なくなりましたが、かつて馬は私たちの暮らしにとって非常に身近な存在でした。美幌で馬の飼育が始まったのは、明治時代の開拓期といわれています。当時の馬は、うっそうとした土地を切り拓く開墾作業や荷物の運搬を担う、極めて重要な労働力でした。その重要性は、当時の作付面積にも表れています。開拓当初、美幌で最も多く作られていたのは、人々の食糧ではなく、馬の餌となる「燕麦（えんぱく）」でした。自分たちの食事以上に、馬の食糧確保を優先していた事実は、馬がいかに不可欠なパートナーであったかを物語っています。また、馬は仕事だけでなく、人々の娯楽も支えていました。秋祭りの余興として開催された競馬は、厳しい開拓生活を送る人々にとって、年に一度の大きな楽しみだったようです。



馬の飼育頭数は、町の人口増加とともに増え続け、昭和30年頃には約3,000頭とピークを迎えました。しかし、その後トラクターや自動車が急速に普及したことで、馬の役割は機械へと代わり、その姿は次第に消えていきました。

かつて多くの馬がいた名残は、現在も町内各地の石碑に見ることができます。美幌叢書第1号『美幌の石碑集』によると、馬を供養する「馬頭観世音」や「相馬妙見」などの石碑が、町内20か所以上に建立されています。

各地区に静かに佇む<sup>たたず</sup>これらの石碑は、かつてこの地で人と馬が分かち合った強い絆の証です。姿は見えなくなっても、美幌の礎を築いた「パートナー」の記憶は、今も大切に受け継がれています。

## Exhibition 展示

企画展「一美幌町の小中学生による一博物館冬季作品展」  
2月7日(土)～3月1日(日)

ロビー展フォトコンテスト  
「峠だけじゃない美幌の自然」受賞作品展  
2月22日(日)まで

ロビー展「ひな祭りとひな人形」  
2月7日(土)～3月3日(火)



## Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

### スノーシューレンタル

2/28(土)まで 9:30～15:00

美幌博物館 受付・無料

対象/ご本人あるいは同伴者にスノーシューの経験がある方、  
靴のサイズ 24.5cm～28.5cm (18才未満は保護者同伴)  
申込み/申込み不要。先着5名。

### プチ工房「ちりめん細工」

2/20(金)、21(土) 10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品  
ができ次第終了

美幌博物館 1階 講座室・400円

講師/鬼丸和幸(美幌博物館)

対象/どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)

申込み/美幌博物館に電話で申込み。各日50名で締切。



### 送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越などでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどの  
ご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。

## Tweet つぶやき

お正月を小樽で過ごしていました。近くに観光名所の一つ  
「小樽堺町通り商店街」があったのですが、元旦にもかかわらず、外国からの観光客で賑わっていました。あまりの賑やかさに本当に今日は元旦なのか?と思ったほどでした。(八重柏誠)



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館  
【デザイン】城坂結実  
【編集】城坂結実・八重柏誠  
【お問合せ】美幌博物館



〒092-0002  
北海道網走郡美幌町字美禽 253-4  
Tel. 0152 (72) 2160  
Fax. 0152 (72) 2162